

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・客の購買意欲が戻ってきた。客への啓もう活動が実を結んできたのか、はっきりとした目的を持って来店する客が増えている。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格の急落により石油製品価格が下落している。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・12月は総選挙があり、前半があまり良くない状況であったため、月を通して良くない状況で推移するとみられたが、総選挙の結果、自民党が大勝してからは元の状況に戻っており、大変忙しい日が続いている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・中国上海からのLCC直行便が週4便就航したことにより、近隣アジアからの観光目的の客が好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・クリスマスから年末にかけての消費動向が活発になっている。忘年会なども例年どおりに行われているようだ。
		タクシー運転手	販売量の動き	・12月は雪の降る寒い日が多かったうえ、クリスマス関連のイベントもあったため、客の乗車回数がやや増えており、3か月前と比較すると売上は約9%の増加であった。前年実績と比べても約2%の伸びとなり、やや良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月24日までの利用客数は前年比で約94%となっているが、24日間のうち4日間で暴風雪などの天候不良による運休があったことが影響している。前年の運休はゼロだったため、単純にこの4日間に前年の数字を入れると、前年比は109.2%となることから、景気はやや良い状態にある。日々の様子をみても例年よりもにぎわいが感じられる。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・クリスマスプレゼントの販売量が前年と比べて減っている。また、自己購入をしている客の単価、販売量とも前年を下回っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・12月ということもあり、もう少し客の反応が良くなるとみていたが、意外に鈍かった。総選挙で良い結果が出ているが、それにしても客の反応が鈍い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月上旬から中旬にかけて、商店街を訪れる客は昼夜ともに少なかった。特に、年末大売出しの抽選会場への来場者は、前年と比べて初日及び2日目かなりの落ち込みであった。消費税増税が延期されたものの、電気料金の値上げと総選挙の影響が大きかったとみられる。下旬になると、冬休みに入った学生や孫を連れた祖父母世代の来街者が増加したが、月全体での来街者は前年を下回った。
		商店街（代表者）	単価の動き	・今年は総選挙があった影響で、12月半ばまでの人出は最低な状況であった。その後、人出は増えてきたが、月全体としては前年よりも2割以上減るとみられる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・総選挙の影響が大きく、12月前半はほぼすべての業種でマイナスになった。総選挙後は持ち直したが、大雪の影響もあり、前半のマイナス分をカバーできず、前年比もマイナスとなることが確実である。ただ、北海道を訪れる外国人観光客は絶好調であり、関連業種は軒並みプラスとなっている。
		一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・12月半ばまでは大変良いペースで売上が推移していたが、後半になり、大雪の日など、例年になく大荒れの天候が続いたことから、外出が手控えられ、消費に結び付いてこなかった。1か月を通じて、前年を上回る売上は確保できているが、まだまだ予断を許さない状況にある。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・12月は雪の影響もあり、ホームセンター部門は好調であった。一方、百貨店は相変わらず耐久消費財が苦戦している。輸入ブランドはクリスマス需要がみられたことから、前年並みで推移した。ギフトについては、総選挙の影響もあり、伸びがみられなかった。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いており、変化がみられない。	

スーパー（企画担当）	お客様の様子	・来客数の減少や客の来店頻度の低下が続いている。消費税増税による負担感が強いいため、消費に力強さが感じられない。ただ、以前とは異なり、相応の自己負担は仕方ないという自覚が消費者に根付いているため、安心する未来像とそれを実現するための具体的な政策の提示があれば、消費は自然に上向く雰囲気がある。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・クリスマスケーキやおせちは好調だが、日々の売上と来客数は前年比で5%前後の減少が続いている。客の節約志向が続いており、変化はみられない。	
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数の動きに回復傾向がみられない。特に市部の店舗で状況が悪くなっている。	
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・まとめ買いをする客が少ない。	
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・ギフトシーズンになり、男性客の来店が多くみられるものの、客単価が低い。	
家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税後、一部の商品では回復傾向もみられるものの、家電全体としては、低迷が続いており、ここ数か月横ばい状態で推移している。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税後の販売量の回復がみえてこない。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年比でみても、販売台数や利益が上向いていると感じられる状態ではない。	
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・東日本大震災後、初めての車検時期を迎える乗用車が多いこともあり、車検の売上は伸びてはいるが、カー用品全体は4月以降、前年の90%前後で推移している。	
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・歳末商戦にもかかわらず、景気が上向いているような実感がない。買物客も少ない。	
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・国内客の減少を海外客の増加でカバーする構造が続いているなど、来客数自体は堅調に推移している。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べても、特に販売量が増えていない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年間で最もタクシーの売上が良い月である。今年は、前半こそ総選挙の影響で夜の人出があまり多くなかったが、後半は天気の悪い日が多かったこともあり、タクシー1台当たりの売上が前年を5%ほど上回っている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・11～12月の実績が前年並みで推移しており、良くも悪くもない状態が続いている。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が固定化してきており、良くもならないが悪くもならないという状況が続いている。	
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・日常の消費は徐々に回復しつつあるが、住宅市場については引き続き消費税増税後の反動減で需要が生じてこない状況にある。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・変わるような要因が見当たらない。	
住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来客数はあまり変わっていない。しかしながら、訪れる客が購入に対して慎重になっており、判断に少し時間がかかるようになってきている。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・飲食関連業者では、異口同音に総選挙の影響が結果に表れたと話すなど、売上が低迷した。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・数年に1度の大雪による大荒れの天候で交通の乱れがあったことと、総選挙の影響で売上は前年比96%と前年よりも減少した。また、円安や電気料金値上げの影響で仕入値が上がり、収益は前年を8%下回った。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・国内からの旅行者やビジネス客が横ばいで推移しており、やや悪い状況が継続している。ただし、外国人観光客が大幅に増えており、消費税免税店制度における対象品目拡大の効果もあり、外国人への販売量は増加している。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・年間最大の繁忙期にもかかわらず、来客数が前年比94%と減少傾向にある。お歳暮の売上は前年比100%をキープしたが、クリスマスケーキやおせちの予約は前年比98%と前年を下回った。クリスマスギフトも直前まで下見客の多い状況が続くなど、慎重な購入姿勢がさらに増している。売上が最盛期となる週末悪天候が重なったことで来客数が減少するなど、苦戦した。

百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数、買上客数とも、クリスマスを迎えても減少傾向から脱却できていない。また、クリスマス商戦のメイン商材が、アクセサリーなどの装飾品からハンドバッグや財布などの実用品に移っているため、客単価も低下している。	
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・年末のため、購買率は平月より高いものの、前年からの落ち込みが大きい。特に、宝飾品やブランドバッグなどの高額商材の動きが悪く、株高による恩恵の少ない状況がつかえる。ただし、外国人観光客による購買は、全体に占める割合が小さいものの、高い伸びが続いている。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・12月であるため、3か月前と比較すると当然売上も販売量も伸びているが、平月と比べると10%強程度の伸びにとどまっている。	
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に歯止めがかからない。客は価格上昇に対する生活防衛策として、一度の買物の品数を抑えるとともに、買物の頻度そのものを減らす傾向が出てきている。	
スーパー（役員）	来客数の動き	・今年の12月は前年よりも日曜日が1日少なかったことに加えて、暴風雪の日が例年より多かったこと、さらに総選挙が行われたことなどから、前年と比べて来客数や売上が落ち込んでいる。客単価は前年から2%アップしたほか、商品単価も前年から3%アップしているなか、買上率は前年並みで推移しているものの、来客数が前年から3%前後落ち込んでいる。	
スーパー（役員）	お客様の様子	・お買得企画の時は商材が売れるものの、通常時の客の財布のひもはまだ固く、節約志向が強まる一方である。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は前年を上回っているが、来客数が伸びてこない。販売量も減少傾向が続いている。	
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・テレビなどの大型商材の販売が伸び悩んだ。また、LED照明の商品単価の低下による影響もみられた。	
家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月前半は来客数、売上ともに前年を下回った。後半になり、ようやく年末らしい来客数が戻ってきたものの、全体としてはやや悪い状況にある。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車業界全体のこともかもしれないが、リコールの影響などにより、客の動きが鈍っている。それにとまって販売台数も落ち込んでいる。	
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車が出たものの、一向に受注量が増加してこない。中古車も同様に悪い状況にある。	
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・毎年12月31日まで開店しているが、年末の利用客は観光客が大半であった。また、税込価格での価格指定の予約もあったため、前年と比べると消費税増税相当額だけ売上が減少している。総選挙の影響もあり、今年の売上は前年比で8%減少の厳しい結果となった。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・天候不順も災いして、やや悪かった。クリスマスは日取りが良くなかったこともあり、ディナーの予約が思わしくなかった。団体予約は総選挙の影響で役所関係の利用が減少した。例年、12月のランチは主婦層で混雑するが、今年はあまり満席にならなかった。客からは、例年、予約が難しい人気店でも席が空いていると聞いている。外国人旅行客がかなり多いようだが、当店では恩恵が感じられない。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・12月は前年比90%を下回った。年間でも、法人部門の販売量が最も多い11月が不調だったこともあり、予算達成が厳しい状況である。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・12月は総選挙の影響があり、ビジネス需要が伸びなかった。また、天候悪化により2日間にわたって空港が閉鎖されたこともマイナス要因となった。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・衆議院の解散が報道されてから、来客数が減少している。特に、ファミリー層が目立って少なくなっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・過去3か月の状況と比べて、12月は客の需要が増えている。ただ、その要因としては、年末を迎えるなかで、寒さが厳しかったという一過性の要因によるものである。	
悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・12月に入ってから、防寒コートの売行きが厳しい状況にあり、前年の9割台にとどまっている。ニット関連のクリスマス商材も低単価の商材中心に変わってきている。お歳暮も後半戦で失速し、前年の90%台後半で終わりそうである。

		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・12月になっても、来客数、客1人当たりの買上金額、全体売上が前年の9割程度から増えてこない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・利用客数、運行本数、運行単価とも減少し続けており、好転するような要素が何もない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・12月は目標販売数を大きく下回っており、来年度に向けて社内での大幅な経費削減の必要性が生じている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月間、売上は前年を10%弱下回っている。それより前の3か月は前年を5%弱上回って推移していた。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して天候が悪いことから、フェリーの欠航日数が増加している。また、総選挙の影響により物流量も減少している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響が薄らいできた。景気対策としての公共事業などによる請負物件の需要が活況である。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・業種にもよるが、客先のなかには過去最高の売上を記録した企業が数社あり、多くの受注につながった。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末にもかかわらず荷動きが鈍い。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、売上は特に変化がないまま推移している。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・技術職の従業員がほぼ通年で稼働している状況にあり、中途での人員確保が引き続き厳しい状況にある。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品の本州向け輸送は順調であるが、飲料品については停滞気味である。農産品については生産が良かったため、好調に推移している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・安定した販売量と問い合わせが続いている。その一方で、納期などの顧客要望に応えられない事例もみられるようになってきている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	取引先の様子	・顧客の受注状況が悪化しており、本州などへの出稼ぎが増えているとの情報もみられる。
	やや悪くなっている	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築業界では、本州市場を対象とする鉄骨構造分野は相変わらず好調だが、道内市場に限定される躯体や仕上などの分野は抱える仕事量が減少している。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・冬期間に入ったことで、道内の港湾物流の活況感がなくなっている。周りでも来期計画の話題が中心となってきている。
金融業（企画担当）		それ以外	・外国人観光客は大幅に増加しているが、道内景気を下支えしてきた建設業は公共工事の発注が減少するとともにやや伸び悩んでいる。個人消費は食料品価格の上昇や電気料金の値上げなどから節約志向が強まっている。	
司法書士		取引先の様子	・前年の同時期と比較して、一段と悪化している。特に、不動産関連や個人住宅の建築における悪化が目立っている。	
司法書士		取引先の様子	・冬期間の不動産取引が減少するのは例年どおりであるが、消費税増税後の購買力が依然として低迷したままである。	
その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）		取引先の様子	・地区の基幹産業である公共工事の発注が鈍化しており、東北や関東方面に人員を派遣する客先が前年に比べて増えている。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・大型案件が重なったことで売上は増加したが、消耗品を中心とした基幹商材に落ち込みがみられる。ただし、客先の仕事量は安定しているため、極端な落ち込みとはなっていない。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が増加傾向にある。派遣のニーズも引き続き堅調に推移している。特に、営業マンの求人が増えており、企業が景気に乗り遅れないよう売上拡大に向けて動き出したとみられる。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から1.1%増加し、58か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から4.2%増加し、58か月連続で前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・求人数が増え、求職者数が減少している傾向にあるが、肝心な雇用条件が良くなっていない。働く場所があっても、雇用形態が変わらなければ景気が回復していると実感できない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・いわゆる大型倒産はなかったものの、独立開業を目指した若い世代による飲食店や物販サービス業の開店と閉店がほぼ同数であった。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前よりも求人件数が減っているが、季節的な要因であり、例年とほぼ同じ動きとなっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が若干持ち直している。正社員求人が前年比で横ばいとなったことに加えて、飲食店やホテルなどのアルバイト求人やパート求人が増えている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・11月の新規求人数は前年を3.2%下回った。新規求職者数は前年を8.0%下回った。月間有効求人倍率は0.88倍となり、前年の0.84倍を0.04ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は48.2%と相変わらず低く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。新規求人数が12か月連続で前年を上回り、月間有効求人数は21か月連続で前年を上回っている。ただ、増加幅が若干縮小してきていることは懸念材料である。
やや悪くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・物価が上昇しているにもかかわらず、賃金の上昇がみられない。消費よりも貯蓄にお金回っている状況にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比マイナス9%とここしばらく少ないほどの落ち込みだった。医療、派遣、環境衛生、加工製造は2～7割程度、売上を伸ばしたが、小売、飲食、運輸関係が半減しており、全体を押し下げた。12月の総選挙の影響が大きかったとみられる。
悪くなっている	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・就職件数が3か月連続で減少している。魅力のある求人があまり多くないことが要因とみられる。